



山口宇部 医療センター だより



- P2 ● 新院長・新副院長からのご挨拶
P4 **第43回 市民公開講演会がんフォーラム**
P6 **診療科特集**

「呼吸器内科・腫瘍内科」紹介

- P7 ● 新任医師紹介
● リハビリテーション科：息切れを楽にする姿勢 知っていますか？
P8 ● ジェンナー糖鎖生物学・医学シンポジウムに参加して
P10 ● 職員募集
P11 ● 特殊外来・健康教室・相談窓口等案内
P12 ● 外来診療担当表

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。

新院長からのご挨拶

院長

田中 伸幸



2025年(令和7年)10月1日より、国立病院機構山口宇部医療センターの院長を拝命いたしました。

山口宇部医療センターは、肺がん、胸膜中皮腫などの呼吸器悪性腫瘍を主とする「がんに対する専門的診療」、結核を含めた呼吸器感染症や、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎などの、種々の「呼吸器疾患に対する専門的診療」、そして「重症心身障害児(者)」に対する専門的な療育と診療」という3部門に特化している専門医療機関です。いずれの分野におきましても堂々たる実績を有し、特に、呼吸器疾患診療については、県内でも確固たる実績を誇っています。少子高齢化、物価高、医療機関における人材不足など、昨今の医療を取り巻く環境は必ずしも芳しくなく、これまで以上に、経営の健全化が要求され、また、質の高い医療の提供も必要となってきますが、責任の重さを受け止め、職務をまっとうして参りたい所存でございます。

当院は昭和17年に軍事保護院傷痍軍人療養所山陽荘として開設されました。その後、昭和20年に厚生省に移管されて国立療養所山陽荘となり、以後、国立療養所山陽荘病院、国立療養所山陽病院、独立行政法人国立病院機構山陽病院と名称を変え、平成20年より独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター(山口がん・呼吸器センター)となり、現在に至っています。名称を変えながらも、当初の主たる診療機能であった結核診療は継承しつつ、常に呼吸器疾患の基幹病院であり続けてきたという伝統、および自負があり

ます。また、当院では国の政策医療として堅持すべき重要な領域の一つである、いわゆる、セーフティネット医療である、結核診療や、重症心身障害児(者)の療育、診療も行っており、今後も国立病院機構の一員として責任を持って継続していく所存です。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症は終息していませんが、当感染症に対しても、当院は県内でも重要な診療任務として入院患者の積極的な受け入れを行ってきており、山口県における重要な役割を果たしてきました。今後も県内、国内における重要な立場を認識して地域全体の医療レベルの向上に寄与して参りたいと想います。

また、今後、さらに地域医療構想の概念が発展し、他の医療機関との連携も重要になってきています。近隣の医療施設とも密な連絡を図り、お互いが利益を得ることが出来るように尽力して参りたいとおもいます。

当院では、治験や臨床研究に積極的に参画しており、その成果を学会活動や論文執筆、講演などを通じて広く世に発信すること、そして、臨床と研究を通じて次世代を担う人材の育成に取り組むことも当院にとっての重要な責務であると考えています。

今後も、患者さん中心の医療を進めていき、地域の皆様から信頼される病院であり続けるために、また、その中で働く職員がやりがいやプライドを持って働くことができるように、今後も努力いたして参りますのでご支援のほどよろしくお願いを申し上げます。

新副院長からのご挨拶

副院長

近森 研一

このたび、独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センターの副院長を拝命いたしました。これまで腫瘍内科・統括診療部長として、山口県西部における肺がんや呼吸器疾患を中心に専門的な医療の提供に努めてまいりました。今後は副院長として、地域の皆様はもとより当院職員に対してより一層責任の重さを感じるとともに、地域医療の発展に貢献できるよう全力を尽くす所存です。

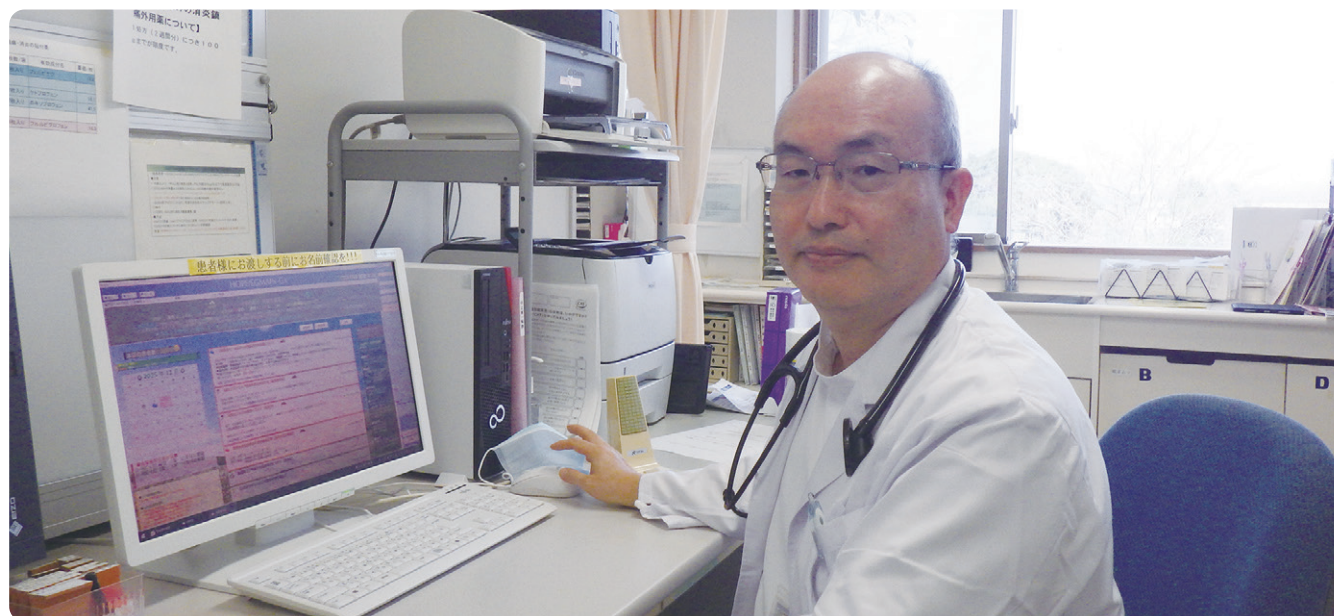
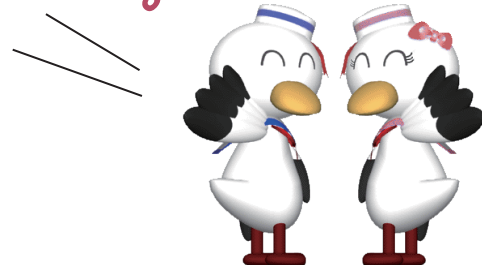
山口宇部医療センターは、肺がんや呼吸器疾患の専門病院として、最新の医療技術と知見を活かし、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供しています。今後も、地域の皆様が安心して医療を受けられる環境づくりを推進し、チーム医療の強化や医療スタッフの育成にも力を入れてまいります。また、緩和ケア病棟利用者、重症心身障害者やそのご家族の方々が安心していただけるような療養環境を整えてまいります。

ここで、当センターで働く医療スタッフの皆さんにも一言申し上げます。日々、患者さんのために尽力されている皆さんの医療従事者としての姿勢と高い専門性に、心から敬意を表します。医療現場は常に進化し続けており、私たちも新しい知識や技術を積極的に学び、

互いに支え合いながら成長していくことが求められます。今後も、患者さんにとって最善の医療を提供できるよう、チームワークを大切にし、風通しの良い職場環境づくりに努めてまいります。

地域の皆様、そして医療スタッフの皆さんとともに、山口宇部医療センターがこれからも信頼される病院であり続けられるよう、全力で取り組んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

よろしくお願いいたします！



第43回 市民公開講演会 「がんフォーラム」



皆様こんにちは。去る2025年11月16日（日）、第43回市民公開講座「がんフォーラム」を開催いたしました。街路樹が色付き、澄み切った青空の行楽日和でしたが、多くの方々にご参加頂き、誠にありがとうございました。

当院では年2回市民公開講演会を開催しており、「がんフォーラム」では、がん診療の最新情報や課題を、「呼吸器フォーラム」では、様々な肺の病気を解説しています。今年の「がんフォーラム」も二部構成で実施しました。



〈執筆者〉

山口宇部医療センター
内科系診療部長
恐田 尚幸

第一部

『進歩し続ける肺がん薬物療法のお話』

山口宇部医療センター 名誉院長 亀井 治人



第一部は、当院名誉院長 亀井 治人（かめいはるひと）先生より、「進歩し続ける肺がん薬物療法のお話」と題してご講演頂きました。現在も肺がんの死亡数が最も多いことを踏まえ、肺がんの診断・治療について、特に「くすり」を用いた治療についてわかりやすくご説明頂きました。

また、当院が力を入れている禁煙外来、低線量CTを用いた肺がん検診、臨床試験、緩和ケア病棟についてもご紹介頂きました。

進歩し続ける
「肺がん薬物療法」のお話



独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター
(山口がん・呼吸器センター)
亀井治人



本日の内容

マニアックな話は封印して…

- 肺がんの統計（本邦の現状は？）
- 肺がんの予防（禁煙と検診は大切）
- 薬物治療の変遷と将来（目覚ましい進歩）

第二部 特別講演

『がん免疫療法の基礎とこれから』

〈外部講師〉 岡山大学学術研究院医歯薬学域(医学系)

腫瘍微小環境学分野

教授

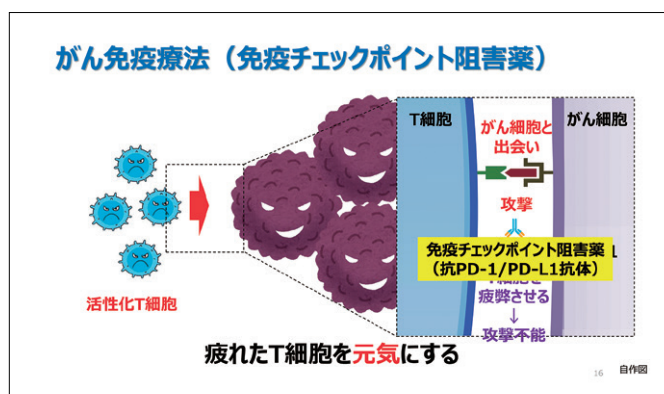
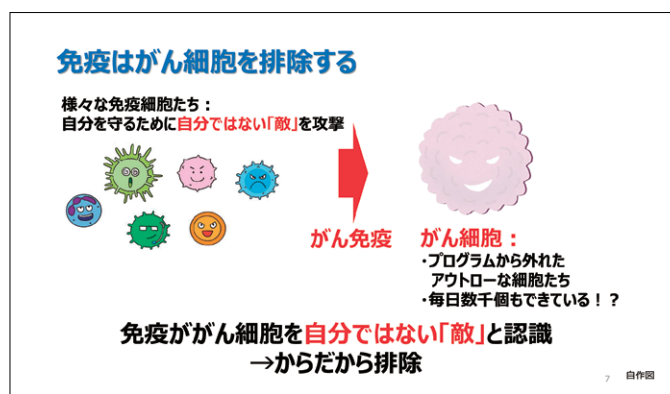
岡山大学病院呼吸器内科 教授 富樫 康介 先生



第二部は、岡山大学学術研究院 腫瘍微小環境学分野教授で、岡山大学病院呼吸器内科病院教授をご兼任されている富樫 康介（とがし こうすけ）先生より、「がん免疫療法の基礎とこれから」と題してご講演頂きました。まず、手術・放射線治療・抗がん剤治療に加わった「がん免疫療法」の発展について歴史的背景を交えて解説されました。続いて、がん免疫療法を理解するうえで「がん免疫編集」の概念が重要であることを強調されました。免疫が、がん細胞を自分ではない「敵」として攻撃し排除すること（排除相）、がん細胞は、免疫の攻撃から巧みに逃れること（逃避相）のメカニズムについてご説明頂きました。がん細胞を攻撃する免疫の主役はT細胞であり、

T細胞が疲弊すると、がん細胞が増えること、免疫チェックポイント阻害薬で疲弊したT細胞を元気にすると、がん細胞を排除できることを、わかりやすく示されました。さらに、腫瘍微小環境の理解が進み、技術の進歩により腫瘍の1細胞レベルでの解析が可能となった現状に触れ、先生ご自身のミトコンドリア伝播の発見という最新の研究成果についても言及されました。

講演後は質疑応答があり、治療の実際や疑問点について熱のこもった議論が交わされ、盛会のうちに終了いたしました。



次回は2026年2月21日（土）に「呼吸器フォーラム」を開催する予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後も専門医療機関として良質な医療を提供できるよう、情報発信に努めてまいります。引き続きご支援の程よろしくお願い申し上げます。

第43回 市民公開講演会『呼吸器フォーラム』

日時

令和8年 2月21日土 [開場・受付] 13:00～

場所

山口宇部医療センター 2階大会議室

宇部市東岐波685番地

第一部

13:30～14:00

山口宇部医療センター

呼吸器科医長

坂本 健次

【演題】「非結核性抗酸菌症について(仮)」

第二部

特別講演

14:00～15:00

【講師】山口大学医学部呼吸器・感染症内科教授

医学部附属病院長 松永 和人 先生

※ 演題は近日公表予定

事前登録不要
入場無料
〈駐車場無料〉

「呼吸器内科・腫瘍内科」 紹介

呼吸器科医師 上原 翔



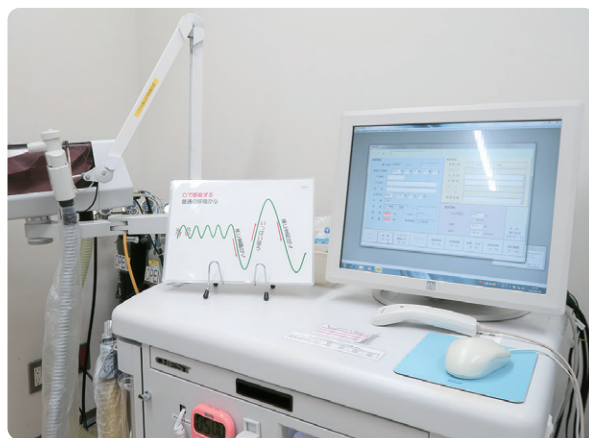
山口宇部医療センター呼吸器内科・腫瘍内科では、肺がんを中心に、咳・痰・息切れなどの呼吸器症状から精密検査・治療まで幅広く対応しています。がんのみならず、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症（NTM）、結核などの良性・感染性疾患も多く診療しており、地域の呼吸器医療を支える役割を担っています。



当院は山口県より「特定領域がん診療連携推進病院（肺がん）」に指定されており、診療ガイドラインに基づく標準治療を基本としつつ、患者さん一人ひとりの状態や希望に応じた最適な治療を提供しています。薬物療法では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新しい薬剤を適切に使用し、副作用管理にも力を入れています。また、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）などの臨床研究に参加し、全国の医療機関と協力して将来のがん治療の発展に貢献しています。

診療では、医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、患者さんご家族の包括的な支援を行っています。特に呼吸器リハビリテーションでは、息切れの軽減や体力維持を目的に、専門スタッフがチームでサポートし、より安心して生活・治療を続けられるよう支援しています。

さらに今期より「非結核性抗酸菌（NTM）外来」を開設し、増加傾向にある非結核性抗酸菌症に対して専門的かつ継続的な診療を行っています。これからも地域の医療機関と連携し、安心して受診できる呼吸器診療を提供してまいります。



呼吸機能検査装置



気管支鏡検査を行うエックス線透視室

新任医師紹介



呼吸器科医師

一山 康

山口大学医学部附属病院 呼吸器・感染症内科から赴任いたしました、一山 康と申します。山口県東部の出身で、徳山高校・山口大学卒業です。大学時代は軟式テニスをしていました。患者さんに寄り添い、ベストな治療を提供できるよう尽力したいと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

〔専門分野〕 呼吸器内科

〔診療抱負〕 呼吸器疾患を中心に、地域医療に貢献できるよう尽力いたします。

リハビリテーション科

息切れを楽にする姿勢 知っていますか？

歩行中、息切れが強くなってしまうことがあります。そのようなときにあわてないよう、息切れを楽にする姿勢を知っておきましょう。

椅子や座ることができる場所が近くにあれば座って呼吸を整えます。

では、もし近くに座る場所がないときは、どうしたらよいでしょう？

まず壁または寄りかかっても動かない安定した場所を見つけます。そして、下記のいずれかの姿勢を取り、ゆっくりと呼吸をしてみましょう。

1 壁に背中をもたれて両手は膝の上へ置き頭を下げる。



2 壁に両手を重ねておき、額または頭をついてよりかかる。



手の位置が高いと苦しくなるので気を付けましょう。

人によって楽になる姿勢は違います。自分にあった姿勢を見つけておくと、いざというときに役立ちますよ。

また、息切れが良くならないときは無理をせず、周りの人に助けを求めることも大切です。



ジェンナー 糖鎖生物学・ 医学シンポジウム

(Jenner Glycobiology and Medicine Symposium)

に参加して

第16回ジェンナー糖鎖生物学・医学シンポジウム（アイルランド共和国ダブリン、メイヌース大学、2025年6月11日-13日）において研究発表の機会を頂きました。

このシンポジウムは1991年にロンドン大学セントジョージズ病院リウマチ学教授ジョン・アクسفورد博士が英国王立協会後援のもと主宰し、2年ごとに開催されてきました。糖鎖を専門とする世界的に高名な研究者から若手研究者までが一同に会し、3日間朝から晩まで（時にはパブに移動して）糖鎖研究の最先端を語り合う研究討論会です。



メイヌース大学 聖パトリックカレッジ



臨床研究部長

三村 雄輔

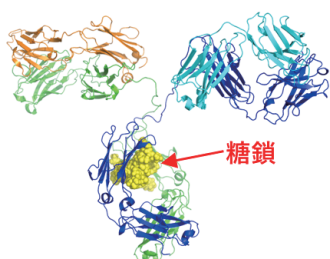
糖鎖とは、ブドウ糖のような単糖が鎖のように連なったもので、核酸やタンパク質に次ぐ「第三の生命鎖」と言われます。その構造はとても複雑で多岐に渡り、相当の情報量を内包できるため、生物学的機能の解明はまだ一部に過ぎません。糖鎖はヒト体内に10万種以上あるタンパク質の半数以上に結合し、多くの生命現象や病態形成に関わっています。また、抗体医薬などのバイオ医薬品では、糖鎖構造が薬理効果や血中半減期に多大な影響を及ぼすため、重要品質特性の一つとなっています。私は前職の英国バーミンガム大学やオックスフォード大学での博士研究員時代（1997-2008年）より抗体の糖鎖に関する研究を専門としており、17年ぶりにこのシンポジウムに参加しました。

日本からアイルランドへは、以前は14時間程度のフライトで行けましたが、今回はとても長い旅でした。ロシア領空を回避し、アラスカ、北極海を通過し、オランダまで遠回りしたためです。夕方に宇部から羽田、最終バスで成田へ移動、一泊し、翌日正午のKLMオランダ航空でアムステルダムまで15時間、乗り継ぎ便を2時間半待ち、ダブリンまで1時

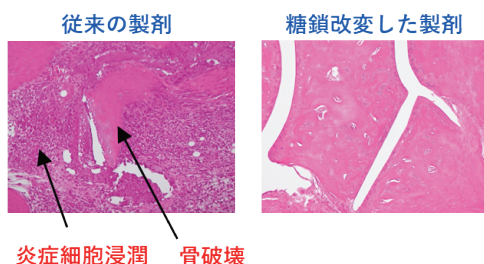
間半のフライト、最後に長い入国審査を終えて夜12時頃にホテルに着きました。成田出発から約20時間の移動で、還暦の身にはこたえました。

このシンポジウムに参加した目的は、我々が開発した糖鎖改変免疫グロブリン製剤(G2-IVIg)が多くの難病に治療効果を発揮する可能性があることを、欧米の研究者にも知ってもらうためでした

A. 免疫グロブリンGの構造



B. 関節炎マウスの薬剤投与後の組織像



(A) 免疫グロブリンGの糖鎖(黄色部分)

(B) 関節炎マウス(後脚)の組織像、糖鎖改変免疫グロブリンを投与されたマウス(写真右、通常の1/10量)は従来の製剤(写真左)と比べ、炎症や骨破壊の程度が顕著に低い。

私の発表は2日目午後3時からの「糖鎖による免疫調節」のセッションの一番目でした。邦題は「ガラクトース付加・フコース除去した免疫グロブリン製剤(G2-IVIg)は炎症を制御する」です。静注用免疫グロブリンは多くの自己免疫疾患や炎症性疾患(特発性血小板減少症、川崎病、ギラン・バレー症候群など)の病態を改善するため、過去40年以上使われてきましたが、作用機序に関しては諸説あり、医学界で合意に至っていません。様々な学説がある中で、我々はG2糖鎖構造をもつ免疫グロブリンG(IgG)が免疫細胞のIgG受容体FcγRIIIaを強力にブロックし、免疫細胞の活性化を抑えることで、治療効果をもたらすことを証明し報告しました(Mimura, et al, Front Immunol 2022, 818382)。今回は、G2-IVIgによる抗炎症作用のしくみを広く理解してもらおうと大変な意気込みで臨みました。とは言え、発表時間は20分とやや長く、しかも英語での発表は10数年ぶりということもあってかなり緊張しており、笑顔を作る余裕はありませんでした。心中を悟られないよう

頑張り、さらに入念な準備もあって、無事に時間内に発表を終えることができました。

そしていよいよ質疑応答です。私の説は、40年も続く免疫学の謎解きに辿り着いたもの、と自負していますが、このような新しい説は、厳しい討論を克服しなければ定説とはならないのが科学の世界です。実際、この研究を論文に発表したときは査読者から膨大な質問やコメントを受けたこともあり、今回も多くの反論を想定していました。ところが、欧米各国の研究者から好意的な意見を頂き、翌日の口頭発表では、私の研究成果に言及してくれる人もいました。懇親会では、同席した研究者達から「とてもよい口演だったよ」と言ってもらえました。概ねこのシンポジウムでは私の説が受け入れられたのかもと感じました。

参加者の一人、糖鎖科学の専門書「Comprehensive Glycoscience(包括的糖質科学) 第2版」(2021年、Elsevier、3355ページ)の主任編集長の米国がん研究所(NCI)ジョセフ・バーキJr教授も好意的でした(私もこの本を分担執筆しています)。主宰者のアクスフォード教授からシンポジウムの閉会の時、「2年後にオランダで会おう、君の研究成果が臨床応用されることを期待している。」と声をかけられ、大いに励まされました。

最後に職場の皆様へ。海外出張の機会を下さり心よりお礼申し上げます。1週間の留守中いろいろとご迷惑をお掛けしました。今回の経験で得られた知見や人脈を臨床研究等に生かしていく所存です。



職員募集



診療機能の充実・医療環境の向上を目指して、職員募集を実施しております。

●看護師

※看護師免許を有する方

令和8年3月に免許取得見込の方

〔業務内容〕 病棟又は外来における看護師業務

〔採用日〕 病院と内定者双方の調整の上決定

〔勤務時間〕 常勤の場合 週38時間45分

非常勤の場合 週32時間勤務以内
※年度更新有。

令和9年度採用看護職員採用試験 に関するお知らせ

令和8年5月23日(土)に実施します。

〔応募資格〕

令和9年3月に看護師免許取得見込の方
看護師免許の資格を有する方

採用試験の応募方法等については、「国立病院機構中国四国グループ採用情報」にて案内予定です。給与等の待遇についてお聞きになりたい方は、お気軽にご連絡ください！

●看護助手

非常勤

※資格不要

〔業務内容〕 病棟にて、配膳・下膳・食事入浴
介助・清掃業務など

〔採用日〕 今年度は令和8年3月31日まで
※その後、年度更新有。

〔勤務時間〕 週32時間勤務以内
※年度更新

採用情報



随時募集中
中途採用者
大歓迎！

●保育士

非常勤

※保育士免許を有する方

〔業務内容〕 重症心身障害児(者)の保育、療育、
生活支援など

〔採用日〕 今年度は令和8年3月31日まで
※その後、年度更新有。

〔勤務時間〕 週32時間勤務以内
※年度更新

当院のホームページに、その他の求人情報と併せて掲載しております。

詳細をお聞きになりたい方は、給与係長までお気軽にご連絡ください。

●給与等の待遇に関する問い合わせ先

山口宇部医療センター 給与係長
藤田恵美



看護師について当院では病院見学会・インターンシップを随時実施
しておりますので、ご希望の方は担当者までにご連絡ください。

〔連絡先〕 tel.0836-58-2300(代)

〔担当者〕 副看護部長 妹尾(せのお)

病院見学会
インターンシップご案内



QRコードを
読み込んだら
ホームページに
いけるよ！



特殊外来・健康教室・相談窓口等案内

令和8年1月1日 現在

特殊外来・健康教室名	場所(診療科)	予約	実施日時	担当
肺癌・中皮腫検診	画像診断科	○	火・金曜日	松本 常男
石綿健康管理手帳検診				
じん肺健康管理手帳検診	画像診断科	○	火曜日	松本 常男
宇部市肺がん検診	画像診断科	○	火・金曜日	松本 常男
宇部市乳がん検診	乳腺・消化器外科	○	月・金曜日	平澤 克敏
宇部市骨粗鬆症検診	放射線科	○	毎日	田中 伸幸
禁煙外来	内科	○	火曜日 午後2時～	前田 忠士
家族ケア外来	精神科	○	金曜日午前(完全予約制)	小野 光弘 / 長友 隆一郎
呼吸器ドック	呼吸器内科	○	火曜日	前田 忠士
			木曜日	亀井 治人
日帰り人間ドック	腫瘍内科	○	火曜日	前田 忠士
特定検診	画像診断科	○	火・金曜日	松本 常男
渡航時の各種証明及び検査				
就業時等の身体検査				
CTによる肺癌検診	放射線科	○	平日 12時～19時 第4土曜 10時～12時	田中 伸幸
乳癌検診	乳腺・消化器外科	○	月・金曜日 午後1時～	平澤 克敏
睡眠時無呼吸症候群外来	呼吸器内科	○	火曜日 午後2時～3時 (新患:第1火曜日)	坂本 健次
手掌多汗症手術外来	呼吸器外科	○	水曜日 午前(紹介状必須)	沖田 理貴
てんかん外来	精神・神経内科	×	毎日	小野 光弘
セカンドオピニオン外来	外来診察室	○	毎日(完全予約制)	各種対象疾患担当医
がん相談支援外来	がん相談支援室	×	毎日	がん相談支援室看護師
呼吸器疾患看護外来	外来診察室	○	毎月第1・3木曜日 午前 (完全予約制)	認定看護師
がん看護外来	外来診察室	○	毎日(完全予約制)	認定看護師
非結核性抗酸菌症(NTM)外来	外来診察室	○	第2、4火曜日	坂本 健次
			第1、3金曜日 午後1時30分～	恐田 尚幸
糖尿病教室	栄養相談室	○	現在休止中	管理栄養士
高血圧教室	栄養相談室	○	現在休止中	管理栄養士

診療科	概 要	月	火	水	木	金
内 科 新 患 外 来		亀井 治人 上原 翔	近森 研一 恐田 尚幸	前田 忠士 吉山 大貴	綿田 誠	角川 智之 藤井 哲哉 (午前のみ)
内 科 紹 介 外 来	(連携室予約のみ)	亀井 治人	亀井 治人	亀井 治人		亀井 治人
内 科			石田 浩一			石田 浩一
呼 吸 器 内 科		坂本 健次 沖村 昌俊	恐田 尚幸 坂本 健次 久本 優佳里 渡邊 倫哉 一山 康	恐田 尚幸 上原 翔 柳 大樹	坂本 健次 久本 優佳里 渡邊 倫哉	上原 翔 一山 康 沖村 昌俊 柳 大樹
腫 瘍 内 科	抗がん剤治療 肺がん 等	前田 忠士 近森 研一		近森 研一	前田 忠士	
画 像 診 断 科	画像診断 等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	岡田 真典	
呼吸器外科・外科	肺がん	沖田 理貴 岡田 真典		井野川 英利 岡田 真典	井野川 英利 沖田 理貴	
乳 腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等	平澤 克敏		平澤 克敏 (午前中のみ)		平澤 克敏 (手術で不在の場合あり)
緩 和 ケ ア 内 科	※完全予約制		小笠原 啓子		小笠原 啓子	
放 射 線 科	画像診断・ 放射線治療 等	田中 伸幸 田口 耕太郎 神谷 正喜	田中 伸幸 田口 耕太郎 神谷 正喜	田中 伸幸 田口 耕太郎 神谷 正喜	田中 伸幸 田口 耕太郎 神谷 正喜 松本 常男	田中 伸幸 田口 耕太郎 神谷 正喜
小 児 科	重症心身障害児(者) 発達障害児(15歳まで) ※予約制	小林 光	奥田 裕美	奥田 裕美		奥田 裕美
精 神 科	てんかん 等	小野 光弘		小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘

※下記診療科は入院患者のみ診療

消 化 器 内 科	内視鏡 等 ※午前のみ				松本 俊彦	
整 形 外 科	リウマチ・骨粗鬆症 等 ※午前のみ					藤本 和弘
歯 科	13時～		白石 麻美		野田 健人	
耳 鼻 い ん こ う 科	13時～			清水 菜津子		
神 経 内 科	13時～			神田 創		
皮 膚 科	14時～				杉本 紘子	
循 環 器 内 科	9時30分～12時30分 13時00分～17時00分	佐野 元昭		石口 博智	奥田 真一	

① 外来受付時間：午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間：午前8時45分～】

※内科新患外来：午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来：午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CTの外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

※中学生以下の患者さんにつきましては、事前に地域医療連携室までご相談ください。



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241 山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代) FAX.0836-58-5219

<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>



患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで



地域医療連携室

受付時間／毎週月～金曜日(祝日及び年末年始を除く) 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938